



2019年11月1日発行
 (毎月1日発行)
 1984年8月15日第3種郵便物認可
 発行所／(公財)熊本YMCA
 〒860-8739
 熊本市中央区新町1-3-8
 Tel 096-353-6397代



熊本YWCA職員 熊本YMCA常議員 吉村 千恵さん

熊本YWCA初の専従職員

目の前に颯爽と現れたのは吉村千恵さん。その指には絆創膏。「この絆創膏？内装工事でケガしちゃったんです。今日も会館の床のタイル張りをやってきました」。吉村さんは熊本YWCAの職員で、7月に熊本YMCAの常議員にも選任されました。YWCAとはThe Young Women's Christian Association(キリスト教女子青年会)。1855年にロンドンで誕生、1905(明治38)年には東京YWCAが設立されました。吉村さんは2009年から2016年まで日本YWCAの副会長を務めるなど、関わりは20年以上に及びます。

熊本YWCAの設立は1964年。今年度から吉村さんが初の専従職員になりました。留学生やその家族の支援、国際交流、共生社会の実現に向けた活動がボランティア会員によって行われてきた熊本YWCA。「なぜ今、職員に？」と尋ねました。「月1回の在住外国人のためのリサイクルバザーに留学生の家族がやってきます。夫が留学生で、家族は非常に厳しい経済状況に置かれているというケースが少なくありません。単発のバザーではなく生活に困っている人たちの“居場所”であるため、通年で活動していきたい。在住外国人の子どもたちの支援も課題です。これらのためには職員が必要です。法人化に向けてゼロからの準備です。事務処理はもちろん、会館の改修だってやってます。外壁は皆の手形で模様を描こうと思ってるんですよ」。

共感者を増やし、社会をよくする

ライフワークとの出会い

「人生を決定づけたのはYMCAです」と吉村さん。大学在学時に農村支援ツアーで訪れたタイに魅力を感じて、タイ北部地域のことを調べた吉村さんは、子ども買春の現実を知りショックを受けたといいます。「熊本でタイの子どもたちを支援しているところはないかと探したら、熊本YMCAの『若竹寮』に出会いました」。若竹寮は1994年、熊本YMCAの支援でタイ・チェンライに設立。今も北部タイの山岳少数民族の子どもたちが暮らしています。「もっとタイのことを知りたい」。その熱意のままに以後、何度も若竹寮に足を運びました。

大学卒業後は京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に進学。その後も同大学の東南アジア研究所で研究を続けました。「大学院在籍10年のうち3年間は研究のためタイに滞在し、その他も行ったり来たりでの生活でした。お坊さんからお布施を分けてもらいながら1円も使わずに2週間生活したこともあります。人々の暮らしに入り込んでようやく彼らは客人としてではなく、本音が言える相手として受け入れてくれるのです」。ライフワークとする研究テーマは「タイ社会とタイの障害者の地域生活」。タイ経済は2000年代に急速に成長。医療技術も進み、平均寿命はこの20年で6年以上伸びました。

「重度の障害者の平均寿命も飛躍的に伸びました。一方で福祉制度は未整備な点が多い。障害者への差別も未だに残っています。しかし、農村では障害者は家に引きこもらずコミュニティに参画している点がとても興味深い。超高齢社会の日本が参考にできるヒントがあるかもしれません」。

※「障害」は社会にあるとのご本人の考えから、障害者と表記しています。



学生時代に訪れたタイの若竹寮

バトンはいずれ次の世代へ

「タイへの研究意欲は尽きません。でも...」。吉村さんは続けます。「今は熊本YWCAの法人化に専念したい。ただし、私は“地ならし役”。これから職員となる人が長く楽しくやっていけるように、整えていく役割です。いずれはこのバトンを次の世代に渡して、私はまたボランティアに戻るつもりです」。

最後に、吉村さんのこれからの夢について尋ねました。「いつかはタイ研究の世界に戻りたい。もう一つはYMCAとYWCAのつながりを強くすることです。YMCAの常議員であることも、いい経験になっています。ともに祈り、ともに体を動かしたいですね。他団体との協働はもっとあっていい。“YMCA、YWCAの人たちはどうしてあんなに一生懸命なんだろう。そこに聖書があるからなんだ”と感じてもらう。クリスチャンの背中を見て、キリスト教精神が広がる。私たちの使命は、キリスト教精神に裏打ちされた活動を通して共感者・協働者を増やし、社会をよりよくすることだと思います」。

Pickup

体育英語幼児園
園児たちがテープカット!
むさしフェスタ



「大きい採れたよ!」
ぶどうの木幼児園
芋ほり遠足

雨でも元気!!
水前寺幼稚園
運動会



YMCA

年末募金

こども 若者 国際協力

YMCAは出会いとつながりを大切に
これからも希望あるより豊かな社会をつくります



互いを認め、高め合う、前向きなネットワーク「ポジティブネット」の実現に向けて、
お寄せいただく募金を地域の希望や活力に変える働きを進めます。

こども

小学2年生 YMCA野外活動クラブ在籍
小山 紗弥さん、明日香さん(お母様)

今年の春、娘が小学校からキャンプのチラシを持って帰って「これに参加したい!」といったのが、YMCAとの出会い。昨年の2学期から、学校に行きたがらないことが多くなった娘ですが、今は野外活動クラブにも入って、楽しそうに参加しています。参加費減免制度のおかげで、夏のキャンプにも参加できました。



野外活動クラブでは、バーベキューや魚釣りなど、ひとり親家庭の我が家ではなかなかさせてあげられないことが、たくさんできます。娘には、様々な年齢のお友だちやリーダーと関わって、いろんな世界があることを知ってほしいです。

※参加費減免制度/経済的な困難を抱える子どもたちのYMCAプログラム参加費を補助する制度。

若者

YMCA学院 児童福祉教育科
2018年度卒業生
やまなみこども園保育士
徳元 彩音さん



ひとり親家庭で育った私に、YMCA学院の奨学金制度について教えてくれたのは高校の先生でした。保育者を目指して児童福祉教育科に入学。YMCAでの3年間で一番印象に残っているのはクラス全員で取り組んだ卒業発表会です。人前で意見を言うのが苦手だった私も、当日までに何度も話し合いを繰り返す中で、人に気持ちを伝えることの大切さを実感しました。今でも、あの時の経験が役立っています。

奨学金が募金で成り立っていると聞いた時は驚きました。おかげで3年間しっかり学ぶことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、子どもたちの保育を通して、地域に貢献し、皆さんに恩返しをしていきたいです。

国際協力

タイ
若竹寮 在寮生
高校3年生
チュダパさん



日本の皆さん、お元気ですか?勉強の支援をしていただいて、どうもありがとうございます。若竹寮での生活は、今年で3年目です。ここではみんな仲良くしてくれて、とても親切です。機会があれば、私たちを訪ねてきてください。

私は、この寮に入ることができて、とても幸せです。将来の夢は人々を守る警察官になることです。一生懸命勉強すること、また、両親や寮長の言うことを聞くことを約束します。支援していただいている皆さんの期待を裏切らないようにしたいです。最後に、皆さんの健康をお祈りします。末永く私たちとお付き合いください。

※若竹寮/タイの山岳民族の子どもたちが共同生活を送りながら街の学校に通えるようにと、熊本YMCAが開設した寮。日本の里親や募金等の支援により運営している。

募金の 用途

こどもたちの
支援

学生・留学生
の支援

健康・福祉
支援

ボランティア
リーダーの育成

国際協力

災害復興支援

募金の方法

①持参

お近くのYMCAセンター
受付にお持ちください。



②お振込み

郵便振替や銀行振込で受
け付けています。
お振込み先はWebサイト
をご確認ください。



③街頭募金

県内各地で街頭募金を実
施します。



④行事への参加

12月には市民クリスマス(詳
細は4面)、1月には楽しみな
がら参加できるチャリティプ
ログラムを開催します。



⑤募金箱の設置

設置可能なお店等がありましたら、お申し出ください。

YMCA年末募金

【期間】2019年11月1日～2020年1月31日
募金方法・詳細はWebサイトでご確認ください。

熊本YMCA 年末募金



R | E | P | O | R | T

[10月5日⇒ 10月18日]

ユース

感動体験を共有

ユースフェスタ

夏にYMCAで様々な体験をしたユースが活動報告と交流を行うユースフェスタを、10月5日(土)、中央センターで開催しました。

今年は、報告に先立って映画『星に語りて』を上映。東日本大震災時の、障がい者や彼らを支えるNPOの働きなどを映像化した感動作でした。その後、日韓青少年交流、アジア・太平洋YMCA大会、広島YMCA国際青少年平和セミナー、あそぼうキャンプ、ポニーキャンプ、コスモスキャンプの6団体、また熊本YMCAから、タイ北部山岳少数民族の支援、東

ティモールYMCA支援、ミャンマー・モガウンYMCA支援の報告がなされました。その後、軽食を食べながら団体を横断して自己紹介や映画の感想、活動について語り合い、交流を行いました。

ユースからは「自分が参加したもの以外のいろいろな活動を知ることができてよかった」「海外でのボランティアもあったので、次は私も参加してみたい」といった感想が聞かれました。新たな出会いがあり、熊本YMCAの活動への関心が深まったひと時でした。 職員 大宅登貴子



国際交流

多様性にふれる

子どもたちが英語でキャンプ

10月12日(土)～13日(日)、YMCA阿蘇キャンプでこどもえいごキャンプを行い、年長から小学6年生までの29名が参加しました。今回のテーマは「アニマル」。親しみを持ちやすい動物をテーマにすることで、子どもたちの好奇心を刺激し、楽しく活動することができました。

キャンプ中はたくさんのおともだちやリーダーと英語を使いながら活動しました。普段英語を学習していない参加者もいましたが、最初にキャンプ中に使えるフレーズを学ぶことで、活動中に英語を使って

コミュニケーションを図ることができました。

今回のキャンプには多様な国のリーダーが参加していました。はじめは文化や価値観、肌の色の違いに戸惑う様子の参加者もいましたが、一緒に過ごす中で、その違いを自然に認めているようでした。このような多様性を身につけることができるのもえいごキャンプの一つの魅力だと思います。

子どもたちは「皆にやさしくすること、助け合いを学んだ」「全部楽しかった。また来たい」と感想を話してくれました。 職員 中村恭浩



講演

働きやすい職場とは

着ぐるみ工場の女子たちの挑戦

県内の企業がともに社会貢献に取り組むYMCAフィランソロピー協会の年次総会を、10月18日(金)、城彩苑の多目的交流施設で開催しました。

記念講演では、これまで2千体以上の着ぐるみを製作した「KIGURUMI.BIZ株式会社」の代表取締役である加納ひろみさんが「着ぐるみ工場の女子たちの挑戦～働くことをあきらめなくていい職場づくり～」をテーマに講演。経済産業省が選定する「新・ダイバーシティ経営企業100選」にも選ばれた、女性が働きやすい職場を目指した取り組みについて、具

体的な事例を交えて語り、「ワークライフバランスについて考える時、“早く帰るように促す”、“たくさん休みを取ってもらう”だけでなく、生きがいを持って働くことができる場所を提供することが重要です」とメッセージを送りました。

来場者からは「自由を得るために働くということに共感した」「同じことでも、いろいろな方向から見ると解決の糸口が見つかると思った」などの感想が寄せられました。

講演会の詳細は、2020年1月号に掲載します。



岡 総主事の タラン トン Vol.64



YMCA キャンプ

1920年大阪YMCAが六甲山東麓で行った簡易天幕生活キャンプ、これが日本における最初の組織キャンプです。2020年、YMCAはキャンプ100周年を迎えます。

日本YMCA同盟主催のキャンプ100周年記念シンポジウムが、自然の恵みをいただける場所、阿蘇外輪山の麓、車帰にある熊本YMCA阿蘇

キャンプで開催されました。

阿蘇キャンプは、1952年に教育キャンプ場として誘致されました。様々な学びと体験の場として今日まで67年の歴史を継承し、九州はもとより西日本の多くの青少年がここに集い、育ちました。キャンパーやリーダーとして関わった皆様、様々なボランティア、支援者として関わった皆様の大切な思い出がここにはあります。

キャンプが子どもたちに与えるよい影響の一つは、自然の中で仲間と生活を共有することによる様々な気づきから自己変革をもたらすことであると思います。キャンプには私たちの想像を超える劇的な成長をもたらす可能性が秘められているのです。

YMCAのキャンプが、神様の豊かな恵みと導

きによって更に洗練され、一人ひとりが大切にされる社会、YMCAが掲げるポジティブネットのある豊かな社会をつくり、体現できる居場所として用いられ、社会の課題に取り組む手段として益々深化する。今回のキャンプ100周年がその契機となることを願います。

YMCAは、新たなキャンプの可能性にふれ、新しいことにトライし、チャレンジを繰り返し、人々の目線に立ち、活動していきます。

今年もYMCA年末募金が始まります。YMCAがキャンプで培ってきた仲間を思い、ともに助け合っていくという精神に基づき、全ての人が善意と前向きな気持ちによってつながるネットワークを内外に広げていきたいと思っています。皆様のご支援とご協力をお願いします。

t a l a n t o n

Information 行こう 見よう 深めよう

12月8日 Sunday

障がいのある子どもたちのために インターナショナル・チャリティーラン

走る
×
チャリティー

YMCAインターナショナル・チャリティーランは、障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざし、全国で開催されています。今年も多くの皆さんの参加をお待ちしています。

回 2019年12月8日(日) 9:30~15:00(予定) 場 熊本県農業公園 カントリーパーク
 種目/参加費 [A]グループラン(たすきリレー)〈1km×5人〉/1チーム10,000円 [B]グループラン(小学生タイムレース)〈1km×5人〉/1チーム3,000円 [C]ファミリーラン〈1km〉1家族(4人まで)/1組3,000円 [D]個人〈5km〉/1人3,000円 ※実施順ではありません。参加資格 本大会の趣旨に賛同し、完走完歩が可能な方(年齢制限や、男女、障がいの制限はありません) 競技規則等の詳細はWebサイトをご覧ください。
 熊本YMCA 11月30日(土)までにWebサイトからお申し込みください。
 ※参加費は、必ず12月2日(月)までにお支払いください。



12月4日 Wednesday

市民クリスマス2019 于波トリオチャリティーコンサート

音楽
×
チャリティー

今年の市民クリスマスは、チェリストの于波さん、ヴァイオリニストの工藤真菜さん、ピアニストの葉山由美さんを迎えてのチャリティーコンサートです。益金は熊本地震復興支援活動などのための支援金として用いられます。



回 12月4日(水) 18:30開場 19:00開演 場 くまもと森都心プラザホール チケット(全席自由)大人 2,000円/学生以下 1,000円 ※小学生以下無料 市民クリスマス2019実行委員会 市民クリスマス2019事務局 YMCAみなみセンター(熊本市南区田迎) Tel 096-378-9370 チケット取扱 熊本YMCA各施設 熊本YWCA

12月31日~1月1日

大自然の中で年越しを カウントダウンキャンプ

キャンプ
×
家族

毎年恒例、阿蘇キャンプのカウントダウンキャンプ。餅つき、初日の出、お節料理、様々なお正月遊びを満喫します。みんなで新しい年を楽しく迎えましょう。※ご家族でお申込みください。

回 2019年12月31日(火)~2020年1月1日(水) 1泊2日
 集合・宿泊・解散 YMCA阿蘇キャンプ(阿蘇市車帰) 回 ご家族
 回先着順15組程度
 回中学生以上 13,300円/4歳~小学生 9,000円/3歳以下 2,100円(食事なし)
 回 YMCA阿蘇キャンプ
 Tel 0967-35-0124



回日時 場会場 回内容 費参加費 定定員 回参加条件 回持ち物 回対象 回主催 回締切 回申込 回問合せ 回その他

わたしと聖句

基督聖協団熊本教会
大久保望信

ガラテヤの信徒への手紙 6章9節

たゆまず善を行いましょ。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取るようになります。

収穫の時を待つ

イソップ物語の一つに、「酸っぱいブドウ」という話がありますね。キツネがおいしそうなおブドウを見つけて、高いところにあるのでどうも手が届かない。しまいには「あのブドウはきっと酸っぱくてまずいに違いない」と言って去ってしまったという話です。

人は失恋や、就職、受験などで希望通りに行かない時、「あの人、あの会社とは縁がなかったのだろう」と自分を慰めます。それは、気分転換には良い効果があります。しかし、その考えがマイナスに働き、自分の人生に対して、どうせ何をしてもうまくいくことはない、自暴自棄になり、間違った思いで人生を酸っぱいブドウにしてしまうこともあります。

聖書はそのようなネガティブ思考になってしまいがちな私達に、「諦めずに大きな目標をもって生きる時に、必ず素晴らしい収穫を刈り取ることが出来る。」と教えています。

あの有名なエイブラハム・リンカーンも、大統領として成し遂げた偉業は知られていますが、彼は大統領になるまで事業に失敗したり、何度も落選したり、数々の失敗を繰り返しても諦めず希望を放り出さなかった人物でした。

過去の失敗も、苦い経験も、何が将来の益になるかなど分かりません。私たちが忘れてはならないことは、あなたを造られた神様があなたの人生に特別な計画と目的を用意してくださっているということです。そのことに期待して最後まで諦めない者となりたいたいものです。

発行所/(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人/岡成也 編集人/因幡 亮治
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

2019年度基本聖句

マタイによる福音書 22章39節
隣人を自分のように愛しなさい。